

## 子育てさがし 古久保俊嗣さん／イクメンの次はソフリエ？

2010/12/21 11:42



ソフリエ養成講座で、人形を使った沐浴の指導を受ける受講生  
＝11月下旬、東京都千代田区

### ◎男性の孫育てを応援

我が子の育児に積極的な「イクメン」が注目される中、団塊世代を中心とする第1次ベビーブーム世代の男性の間では、孫育てへの意欲が高まっている。そんな祖父世代の育児参加を応援しようと、ソムリエならぬ「ソフリエ」という造語を発案したNPO法人「エガリテ大手前」代表の古久保俊嗣さん(56)＝東京都杉並区＝。「団塊世代には社会を変革し続けてきた潜在力がある。単なる遊び相手ではなく、主体的に孫育てができる真のソフリエを目指してほしい」と話している。

### ▽孫育てのプロに

11月下旬、東京・千代田区で「ソフリエ・パシエ養成講座」と銘打った男性向け子育て講座が開かれた。講座は同区とNPO法人エガリテ大手前の共催。受講者15人のうち、13人は50～60代の祖父世代だ。

「2月に開いた初めての講座では、父親世代の参加者のほうが多かった。急速に孫育てへの関心が高まっているのを感じます。背景にあるのは、定年と同時に孫ができる年齢に達しつつある団塊世代の存在。“2007年問題”とされていたこの世代の大量退職は、多くの企業が定年を引き上げたことで、12年にずれ込んでおり、今後、退職後の生きがいを孫育てに見出す男性はますます増えていくはずだ」

講座では、生後間もない赤ちゃんの健康と安全を守るために必要な子育てのノウハウを細かく伝授。妊婦への母親学級さながらに、離乳食の調理実習や人形を使った沐浴(もくよく)指導も行われた。

「孫の遊び相手ならできる、というおじいさんは多いと思いますが、ソフリエに期待するのは、一人で子どもの世話ができるようになること。現役の父親時代に子育てをしておこなった男性には荷が重いのと思われるかもしれませんが、実は、退職して時間に余裕ができた男性の中には、家事や

育児を部分的に手伝われるより、全部任せてほしいという意見もある。孫育ては、料理などの家事を学び、老後の生活力をつけるきっかけにもなるはずです」

▽目指すは「バジル社会」

エガリテ大手前は、明治創立の女学校を前身とし、早くから男女共同参画に対する高い意識を培ってきたことで知られる大阪府立大手前高校の同窓生を中心に、04年に設立。05年に法人格を取得し、主に、自治体や企業による育児支援策の調査、研究を行ってきた。

「育児支援について議論をする中で、わたしを含む50代の男性メンバーの多くが、子育てを妻任せにしてきたことを反省し、来るべき孫育てに期待をしていることが分かりました。そこで、首都圏に住む60歳以上の男性とその娘世代に直面調査によるアンケートを実施したところ、男性たちの多くが孫育てに関心を持つ一方、娘世代は父親の育児参加に期待しつつも、実際に孫を任せることには不安を感じていることが分かりました」

そこから、祖父の潜在的な意欲を引き出し、研修によって子育ての知識と技術を保証する“資格”として、ソフリエのアイデアが生まれた。

「ソフリエという呼称には、食文化についての幅広い知識を求められるワインのソムリエのように、これまでの人生経験を生かした孫育てをしてほしいという想いも込めています。父親向けには、菓子作り職人のパティシエならぬ『パパシエ』。こちら、妻のサポートをするだけのイクメンにとどまらず、主体的に育児をする父親を目指してほしい」

ユニークな言葉遊びには、続きがある。

「ソフリエの次は、自分の孫だけでなく、地域の子どもたちの育ちにも関わる『育爺(イクジイ)』。保育ママのように家庭や地域の施設で、保育の担い手になってほしい。祖父母世代の力を活用することで、パパとジジが頑張る『バジル社会』を目指したいです」

自身にはまだ孫がいないが、一人娘(26)が来年結婚することが決まり、「孫が生まれたら仕事は辞めてもいい」と、早くも「専業ソフリエ」を宣言。この日の講座には受講生としても参加し、一足早く、ソフリエの認定証を受け取っていた。

× × ×

古久保俊嗣(ふるくぼ・しゅんじ)さん 1954年大阪府生まれ。大手商社で米国ニューヨーク、ロサンゼルス駐在を経験した後、情報サービス会社役員に就任。2004年、男女共同参画社会の推進に取り組もうと、高校の同窓生らとともに「エガリテ大手前」を設立。05年、法人格を取得。06年以降、毎年、全国主要都市の「次世代育成環境ランキング」を発表している。